

新種のエビ ダイオウキジンエビの発見

動物学研究科主任上席研究員 駒井智幸

当館主任上席研究員の駒井は北海道大学の大学院生だった1988年以来、エビジヤコ科（甲殻亜門軟甲綱十脚目コエビ下目）の分類学的研究を進めてきましたが、北海道の釧路沖と知床半島沖の根室海峡で採集されたキジンエビ属の標本を検討した結果、新種であることが明らかとなり、アクアマリンふくしまの松崎浩二氏との共著により、このたび論文を発表しました。

論文：Komai, T. & K. Matsuzaki. 2016. Two deep-sea decapod crustaceans collected off eastern Hokkaido, Japan: *Sclerocrangon rex* n. sp. (Caridea: Crangonidae) and *Munidopsis verrilli* Benedict, 1902 (Anomura: Munidopsidae). Zootaxa 4162(1): 92-106.

<http://doi.org/10.11646/zootaxa.4162.1.4>



図1. ダイオウキジンエビの産地.



図2. ダイオウキジンエビのホロタイプ. 千葉県立中央博物館所蔵 CBM-ZC 13502.

●名前の由来

本新種の学名は、*Sclerocrangon rex* としました。属名の *Sclerocrangon* は、ギリシャ語由来で、Skleros = 固い + krangon = 小さなエビ、種小名の *rex* はラテン語の王という意味です。本新種がエビジヤコ科では世界最大種であることにちなんだものです。和名もその大きさと風格ある姿にちなみ、ダイオウキジンエビ（大王鬼神蝦）と命名しました。

●新種の特徴

キジンエビ属には、世界で8種が知られていました。東太平洋産の1種を除いた7種が北半球に分布し、日本近海には6種（キタザコエビ *S. boreas*、キジンエビ *S. salebrosa*、オホーツクキジンエビ *S. derjuginii*、メイフノキジンエビ *S. zenkevitchi*、トゲキジンエビ *S. unidentata*、コウダカキジンエビ *S. igarashii*）が分布します。本新種は8種の既知種のうち、オホーツクキジンエビとコウダカキジンエビに最も近縁であると考えられます。特に、額角の側縁に顕著な側歯を具えるという派生的形質を共有しています。しかし、本新種は頭胸甲上にある眼窩後隆起上に小さな棘を具えるという本属の他種では見られない固有の特徴を具えています。さらに、眼窩縁にある突起の形状、頭胸甲の正中に並ぶ3本の大きな歯の形状、第4、5胸脚の指節の側縁に生じる剛毛の状態などの諸形質にこれら3種間の違いが認められます。また、ダイオウキジンエビは体長20 cm を超えますが、これまで知られるエビジヤコ科の最大種であるオホーツクキジンエビで、体長17 cm ほどです。

●発見の意義、その他

これほど大型のエビが新種として発見されることは珍しく、本新種の希少性が示唆されます。また、日本沿岸の深海には多くの未知の生物がいることが示唆されるものであり、特に調査の容易ではない急斜面や岩礁における今後の調査が期待されます。

羅臼町では本新種を「ガサエビ」と称して食用として販売しており、学名が確定したことで地元の水産業の発展にもつながればと思います。